

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項																																		
1	PSC 設定の前提	製品	定義	エネルギーの使用の合理化に関する法律施行令第7条の五に該当する「乾式間接静電式の複写機」とするが、同施行令では除外している以下のタイプは含むものとする。 ・印刷装置と構造上一体となったもの ・ファクシミリ装置と構造上一体となったもの																																		
2			範囲	付属品は次の範囲とする。 ・感光体、トナー、キャリア（一体型カートリッジの場合には一体型カートリッジ） ・全ての包装材（汎用的に繰り返して使用されるものを除く） ・マニュアル類																																		
3			ステージ	範囲	全ライフサイクルステージ（本プログラムで規定する PEIDS に掲げるすべてのステージ；製造、物流、使用、廃棄・リサイクル）を対象とする。																																	
4	製品データシート（LCI 入力データ）	製造ステージ情報（製品情報）	製品材料 または 原料構成	1) 部品等 A (実施ガイドライン “ 3 . 4 項 ” 参照) に区分するものは、下記のものとする。 感光体； 但し、 1. 素管の加工は、 ・自社で収集した加工エネルギーのデータを使用する。（自社でデータが取れる場合） ・自社でデータが取れない場合は No.14 参照。 2. 素管以降塗布までの加工は、自社で収集した加工エネルギーのデータを使用。  トナー； 但し、 1. 加工は、自社で収集した加工エネルギーのデータを使う。 キャリア； 但し、上記トナーと同様の条件付とする。  部品等 A の素材は、MSDS の材料レベルまで遡る。  2) 資源投入量は製品となった段階の材料質量とし、製品質量の 90% 以上の材料を種類別に分類、残りは比例配分し 100% 換算する。  3) 製品データシートに記載する材料名は、“普通鋼、SUS、アルミニウム、その他金属、熱可塑性樹脂、熱硬化性樹脂、ゴム、ガラス、紙、半導体基板、木材” の 11 項目とする。この 11 項目以外のものは原単位名を記載する。  4) オープンリサイクル/リユース オープンリサイクル/リユースを含む場合は次の項目に注意して各社で妥当と判断されるシナリオを設定して計上できる。なお設定根拠の妥当性は検証の対象となる。 (1) 「間接影響」範囲とする工程 (2) 「間接影響」範囲内の控除・負荷																																		
5			製造ステージ情報（製造サイト情報）	投入・消費・排出される物質とエネルギー	投入・消費項目： 電力、A 重油、軽油、灯油、ガソリン、LNG（都市ガス）、LPG、都市用水、工業用水、地下水 但し、部品等 A に関する加工エネルギーは、MSDS の材料レベルまでの負荷を遡る。 排出項目： 特定せず。但し、各社で重要と判断したものを記載する。  投入物質（原材料・エネルギー）の輸送負荷は計上しない。  副産物・副資材は計上しない。製造サイトで投入廃棄されるもので、製品と共に出荷されない資材を副資材と定義する。																																	
6	物流ステージ情報	製品の輸送条件	1) ユーザまでの輸送手段、積載率は、申請各社が設定するモデルに基づくこととする。 2) 海外輸送負荷として、海外生産地の国内輸送と日本までの海外輸送を計上し、国内輸送負荷に加算する。 3) 本体の包装の廃棄・リサイクルは、No. 8 の「廃棄・リサイクル」に入れる。																																			
7	使用ステージ情報	製品の使用条件	1) 使用条件 使用の標準条件は、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づく、平成 11 年 3 月 31 日付通商産業省告示第 193 号「複写機の性能の向上に関する製造業者等の判断の基準等」に規定されたエネルギー消費効率の測定条件に従うものとする。 消耗品及び保守の条件は、申請者各社が自社の実績に基づき標準モデルを設定することとする。 使用期間は 5 年とし、その期間の複写枚数は上記 項に示した通商産業省告示第 193 号に定める条件（下記）に基づくものとする。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td>クラス</td> <td>低速 1</td> <td>低速 2</td> <td>中速 1</td> <td>中速 2</td> <td>高速 1</td> <td>高速 2</td> </tr> <tr> <td>枚数 / 分</td> <td>1-10</td> <td>11-20</td> <td>21-30</td> <td>31-40</td> <td>41-60</td> <td>61-85</td> </tr> <tr> <td>枚数 / 時</td> <td>2</td> <td>10</td> <td>30</td> <td>50</td> <td>100</td> <td>300</td> </tr> <tr> <td>枚数 / 月</td> <td>320</td> <td>1600</td> <td>4800</td> <td>8000</td> <td>16000</td> <td>48000</td> </tr> <tr> <td>5 年間複写枚数</td> <td>19200</td> <td>96000</td> <td>288000</td> <td>480000</td> <td>960000</td> <td>2880000</td> </tr> </table> 2) 使用ステージで必要となる用紙は、負荷計上の対象には含めない。 3) 定期交換部品、消耗品の使用個数 対象；設計時の保守計画、又は保守基準に基づく。 個数；上記に基づく 5 年間の使用個数で、端数切り上げの整数とする。 輸送；上記に基づくモデルを各社で設定する。 4) 定期交換部品、消耗品の廃棄・リサイクル条件は、No.8 の「廃棄・リサイクル」に規定する。	クラス	低速 1	低速 2	中速 1	中速 2	高速 1	高速 2	枚数 / 分	1-10	11-20	21-30	31-40	41-60	61-85	枚数 / 時	2	10	30	50	100	300	枚数 / 月	320	1600	4800	8000	16000	48000	5 年間複写枚数	19200	96000	288000	480000	960000	2880000
クラス	低速 1	低速 2	中速 1	中速 2	高速 1	高速 2																																
枚数 / 分	1-10	11-20	21-30	31-40	41-60	61-85																																
枚数 / 時	2	10	30	50	100	300																																
枚数 / 月	320	1600	4800	8000	16000	48000																																
5 年間複写枚数	19200	96000	288000	480000	960000	2880000																																

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
8	製品データシート ( LCI 入力データ )	廃棄・リサイクルステージ情報	製品の廃棄・リサイクル条件	<p>1) シナリオの設定 別紙「使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ」を採用。 1. 回収ルートは、各社で輸送を含むシナリオを設定。 ・リユースシナリオ ・リサイクルシナリオ 材料別リサイクル率( = ) は、各社で設定する ・非リユース/非リサイクルの産廃処理シナリオ 2. 非回収ルートは、「一廃処理シナリオ」(別紙参照)を採用。</p> <p>2) 控除のシナリオ 別紙「使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ」を採用。</p> <p>3) リサイクル、リユース可能性の判定基準 判定基準は各社で、個別に定める。</p> <p>4) 製品回収率(消耗品や交換部品の“部品回収率”も同一とする) 既定回収率<sub>2</sub>を採用する場合は、<math>2 = 100\%</math>とするが、各社の実績値( <sub>1</sub> )でも良い。</p> <p>5) 製品のリユースの場合 各社の設計値に基づき、使用期間5年間を過ぎてリユースする回数<math>N_1</math>を設定する。<math>N_1</math>は整数とする。 また負荷の計算は、上記<math>N_1</math>を使って、 部品リユースの控除量 = “各社の設計時点で計画したリユース可能量” × “製品回収率<sub>2</sub>(又は<sub>1</sub>)” × “リユース控除率<math>N_1/(N_1+1)</math>”</p> <p>6) 消耗品や交換部品の場合 対象品の寿命の中でのリユース回数を<math>N_2</math>、5年間での使用個数を<math>n</math>とし、端数は切り上げて整数とする。 また負荷の計算は、上記<math>N_2</math>及び<math>n</math>を使って、 部品負荷 = “部品1個の製造までの負荷” × “5年間での使用個数( <math>n</math> )” 部品リユースの控除量 = “各社の設計時点で計画したリユース可能量” × “部品回収率<sub>2</sub>(又は<sub>1</sub>)” × “リユース控除率<math>N_2/(N_2+1)</math>” × “5年間での使用個数( <math>n</math> )”</p> <p>7) リサイクル、リユースされずに廃棄される製品又は部品の処理負荷の具体的計上方法 別紙「使用後製品の廃棄・リサイクルシナリオ」を採用。</p> <p>8) オープンリサイクル/リユース オープンリサイクル/リユースを含む場合は次の項目に注意して各社で妥当と判断されるシナリオを設定して計上できる。なお設定根拠の妥当性は検証の対象となる。 (1) 「間接影響」範囲とする工程 (2) 「間接影響」範囲内の控除・負荷</p>
9	製品環境情報データシート ( PEIDS )	インベントリ分析	LCI 計算式	<p>1) 生産サイトの実測データがない場合の組立負荷は、 製品質量 × 2 × 組立原単位 とする。</p> <p>2) オープンリサイクル/リユースを含む場合は間接影響と直接影響に分離して計算し、このうち間接影響分を「リサイクル効果」として表現する。PEIDS では間接影響の合計を「リサイクル効果」欄に記載し、リサイクル効果の内訳を PEIDS の解説欄に記載する。</p>
10		インパクト評価	カテゴリ追加	PEIDS から「オゾン層破壊」、「富栄養化」、「光化学オキシダント」の項目を削除する。
11	内訳データシート (製品データシート関連)	データ加工	アロケーション	統一せず、各社で適宜決定する。
12		データ収集	収集範囲	データを把握出来ない場合は、設計時又は計画時の条件を含むデータ(含む原単位)で代用しても良い。
13			カットオフルール	組立負荷等についてカットオフを適用する場合は、その旨を明記し、かつその理由を明確にする。
14	内訳データシート ( PEIDS 関連 )	データベース	原単位データベースの選定	<p>1. 各社が決めた購入部品の組立については、原単位「部品組立」を採用。</p> <p>2. 感光体の素材は、原単位「A1板」を採用。</p> <p>3. 酸化鉄(使用する場合)については、原単位「冷延鋼板」を使うこととするが、個別原単位の使用を制限するものではない。</p> <p>4. 感光体素管の加工は、原単位「非鉄プレス」を採用。 なお上記原単位名は、「原単位リスト」参照。</p>
15			原単位データベースの追加	なし
16			特性化係数の追加	なし

No.	大項目	中項目	小項目	取り決め事項
17	製品環境情報	製品仕様		1. 複写速度 2. 最大用紙サイズ 3. 検証対象となる機能（両面機能、ADF、ソータなど） 4. 製品質量
18	製品環境情報	データ公開内容		1. 記載項目 必須項目として規定（ガイドライン）されている、「温暖化負荷、酸性化負荷、エネルギー消費量」を記載することとし、選択項目の7項目（ガイドライン）は記載自由とする。 2. 対象ライフサイクルステージ 記載自由とする。 1. 使用条件の設定 使用期間（ 年間）、使用量（ 万枚）を記載する。 2. 表現方法 文章、表、グラフいずれの選択も自由とする。 オープンリサイクル/リユースを含む場合は ・ 「リサイクル効果」は実際に発生した負荷とは統合せずに、独立してステージ毎に点線で表示する。 ・ リサイクル効果の内訳は欄外に記載する。
19	その他環境関連情報	選択記載項目		下記のものを記載できる。 1. タイプ および/又はタイプ の環境ラベル 2. ISO14001 認証の取得 3. 国または工業会等の認証・認定・表彰 4. 有害物質

